

敷地面積も校区面積も市内最大!心を育む活動も重視



文



糸島市内で一番大きな校区を持つ糸島市立志摩中学校。学校の敷地面積も全国平均の3倍近い約7万平方メートルで、ヤフオク!ドーム(福岡市中央区)の建築面積とほぼ同じというから驚きです。イベントホールのような開放的なランチルームもあり、伸び伸びした環境が大きな魅力ですが、教育面では細やかな取り組みも目立ちます。生徒が年に1回弁当を持ち寄る「弁当の日」では、まず、夏休み中に教員だけによる「弁当の日」を実施。その様子をスライドショーにして生徒たちに見せることで、意欲を育むねらいがあるそうです。

心を育む活動として、全校生徒に参加を呼び掛けるボランティア部も、平成29年度から始まりました。内容は、各小学校の運動会手伝いや、小学生が公民館に寝泊まりしながら学校に通

う「通学合宿」の支援、「福岡マラソン」の準備や当日のサポート、学校裏に広がる海岸林の清掃、近くで開かれるゴルフ大会前の沿道清掃など、地域に根付いたものばかり。さまざまな人とかかわり、自分が人に喜ばれる存在であるという自己肯定感を養うことにもつながれば、という思いも込められています。

平成30年9月からは、受験を控えた3年生を対象に、自学自習を支援するための「志摩塾」も実施。毎週水曜日の放課後に2時間、志摩中学校の卒業生である大学生が学習をサポートする取り組みで、生徒の自主性が高まり、学年全体の学ぶ雰囲気が向上することが期待されています。



「福岡マラソン」当日、ランナーたちに氷を手渡しながら声援を送る生徒たち



「志摩塾」では、志摩中学校出身の大学生たちが、生徒たちの質問に答える